

新潟市西堀地下施設のあり方検討方針（案）について

1. 検討の基本的な考え方

本検討は、西堀地下施設の今後の活用について、専門的な視点からご意見、ご助言をいただき、本市の検討を深め、合理的な方針検討に資することを目的とする。

2. 検討体制と役割分担

本検討においては、以下の役割分担を前提に進める。

①西堀地下施設利活用検討プロジェクト・チーム（本市庁内組織）

方針検討主体として、最終的な方針案の作成を担う。

②新潟市西堀地下施設のあり方検討有識者会議

検討内容に対する専門的知見から助言を行う。

③運営補助事業者

技術的・経済的・制度的観点から判断材料を整理し、比較・検証に資する資料を作成・提示する。

3. 新潟市西堀地下施設のあり方検討有識者会議 全体の進め方（案）

有識者会議は、複数回の会議を通じて、段階的に検討を深める構成とする。各回の開催にあたっては、事前に説明・資料共有を行い、当日は本質的な議論に集中できる進行とする。

① 第1回会議

検討の前提条件、役割分担、施設概要の把握、全体スケジュールの共有。

② 第2回会議

事務局から「あり方の3つの軸」を提示し、考え方の妥当性を検討し、課題を抽出する。

・第2回会議と第3回会議の間で、事務局が市民や関係者との対話の機会を設ける。

③第3回会議

「3つの軸」の比較検討結果、市民や関係者との対話の結果を共有し、議論する。

④第4回会議

市の判断に向けた最終的な論点を整理する。

4. 「あり方の3つの軸」について

検討の入り口として、プロジェクト・チームから「あり方の3つの軸」をご提案する。3つの軸は、「使い方の違い」ではなく、本市が負う責任水準および投資水準の違いとして整理する。

① 価値創出型の活用

地下空間を活用した新たな価値創出を目的とする。

② 機能再編型の活用

安全性・公共性の観点から必要最小限の機能を維持する。

③ リスク解消型

地下空間としての利用を終了し、将来的な管理責任を解消する。

	① 価値創出型の活用	② 機能再編型の活用	③ リスク解消型	
定義	民間施設や多様な機能導入を通じて、 経済的・社会的価値の創出 を目指す。	時代に適合した機能再編 を目指す。安全性・公共性の観点から必要最小限の機能を維持する活用。	地下空間としての利用を終了し、埋戻し・封鎖・解体等により、物理的リスク、 管理責任そのものを解消 する。	
具体的イメージ	・商業・交流・文化・観光等機能の導入 ・地上空間や古町エリアとの一体活用	・空間の一部縮小・区画閉鎖 ・歩行者動線としての用途 ・広場としての用途 ・防災・インフラ機能へ転用 ・社会実験場としての転用	・躯体の埋戻し・撤去 ・地下空間としての利用廃止 ・維持管理の負担を解消	
特徴	・投資規模、将来負担が大きい ・経済合理性が最大の課題 ⇒まちを再生するために利活用する	・新たな賑わい創出を目的としない ・都市機能として責任を果たしつつ「残す」選択 ⇒ 財政負担と都市機能のバランス	・初期費用は発生するが、将来負担は最小 ⇒リスクを恒久的に断つ	
観点	目的	価値創出・賑わい	機能維持・安全確保	リスク解消
	投資水準	高い	低い（必要最小限）	初期整理のみ
	責任水準	高い	最低限	なし